

不当処分を許すな

現在経済学部において学生会執行部をはじめとする15名の学友がこの斗争の中で処分(自宅謹慎)を受けた。ここで我々が見ぬかなければならないことはこの処分がどのような意味を持って行われるのかという事である。自宅謹慎という親心から出たような処分を下し多くの学友の不当処分に対する怒りを軽いかい処分といったイメーヅづけで最後はしようとする又処分者に対して悪循環をくりかえさせその処分を破つたという既成事実を作りあげ速決的処分を下そうとする最も是功なやり方であるという事である。我々は学園民主化と不当処分白紙撤回をせよと最後にまで闘おうではないか。

不当処分白紙撤回!

検閲制徹底!

学生の自治権の確立!

経済学部事務糾弾委員会
文理支部

日大全民主勢力を結集しよう

——全学学生諸君へ——

日本大学教員連絡協議会は、五月以来、全学学生諸君が総力をあけて古田体制の打倒と学園民主化のために進めてきた精神的闘いに深い共感を覚える。われわれは、日本大学の現実を今日にいたらしめた責任の一端がわれわれ教員層の怯懦にあったことを反省するとともに、次の基本的態度を明らかにする。

一、学園の自治

大学の自治は、学生と教職員全体がおのその主体制を確立し、相互にその立場を尊重し、人間的連帯の回復を基盤にすえた大学共同体の理念の上にはじめて築くことができる。したがって、教員協は自己の民主的組織の確立に努力するとともに、全学生の自治権獲得の運動にも全面的な協力を惜しまぬものである。

二、九・三〇確約の履行

九・三〇大衆団交において学生諸君がかちとつた確約は、日大民主化闘争において、学生を主力とする全日大の民主的勢力が築いた一里程碑であったと考える。教員協は、理事会に対しこの確約の履行を強く要求する。

教員協は、学園民主化と正常化の第一歩は、全理事・監事・評議員の即時辞任にあると考へ、理事会に対し、直ちに総退陣して、民主的に選出された代行機関へ権限を委譲することを強く要求してきた。これこそが、現在の事態を早急に収拾し、理事者の作爲的怠慢によって作り出された学生諸君の留年卒延などの危機を打破するため、全学協議会を組織し、全学の民主勢力の結集に努力している。そして、この方向は、学生諸君が五月以来、大学の民主化を求めて大学に要求してきたところと、共通の基盤を有していると考へる。

教員協は、教育者としての良心にかけて、新しい大学の創造のために、学生諸君とともにその努力を続けるであろう。

昭和四十三年十月三十一日

日本大学教員連絡協議会